

# 1

## 人道支援

“ 各国で子どもたちのために行っているすべてのことが無駄にならないよう、私たちはエボラとの闘いに打ち勝たなくてはなりません。コミュニティがその方法を示してくれています。 ”

・・・ ユニセフ・エボラ対策グローバル緊急コーディネーター  
ピーター・サラマ医師（2014年11月）

## 1946 年の創設以来、人道支援は ユニセフの仕事の中でも中心的な 活動であり、新しい中期事業計画 の中で中核に据えられています

人道支援はユニセフの公平性アプローチの取り組みの中でも要となっています。なぜなら危機に巻き込まれた子どもたちは最も困難な立場にあるからです。ユニセフは 2014 年も、紛争、脆弱な環境、自然災害、および疾病の流行の影響を受けた数百万の子どもたちのニーズに応えました。

世界では推定 2 億 3,000 万人の子どもたちが、武力紛争の影響を受けた国・地域で暮らしています。2014 年、自然災害で被災した 1 億 200 万人のうち、約 50 ～ 60% は子どもでした。同年、ユニセフは 98 カ国における 300 件近くの緊急事態に対応しました。

ユニセフは年初より、2013 年 11 月にフィリピンを襲った台風ハイエン（台風 30 号）（18 ～ 19 ページ参照）、および中央アフリカ共和国とシリアで続く紛争という 3 つの重大な緊急事態の支援にあたりました。その後、2014 年の間に、イラク、南スーダン、そしてエボラ発生に見舞われた西アフリカ諸国で、組織的な動員を必要とする危機が発生

しました。

こうした緊急事態により、子どもたちの健康的な生活は著しく、そして多くの場合、突然に奪われました。暴力により殺されたりひどい障がいを負ったり、あるいは住むところを追われ、家族と離ればなれになり、学校への登校がままならなくなったりして、様々な形で危機にさらされました。

2013 年 12 月にギニアで発生したエボラは、かつてない規模の流行となりました。2014 年末までに、ギニア、リベリアおよびシエラレオネにおいて合計 2 万 206 人の感染疑い例、可能性例、確認例が出ました。従来脆弱であった 3 カ国の保健・衛生システムはエボラ発生により麻痺し、学校教育や予防接種、マラリア治療、HIV と共に生きる人々に対する抗レトロウイルス療法などの公共サービスが打撃を受けました。さらに、握手やハグといった一般的な社会的慣習にも支障が出ました。

大きく報道されない緊急事態もありまし

（11 ページにつづく）

イラクのクルディスタン地域に届いた、ユニセフとパートナー団体が提供する冬物の衣類と物資を受け取る親子



© UNICEF/NYHQ2014-2036/Khuzai



## エボラと 闘う国々を 支援する

2014 年末までにギニア、リベリア、およびシエラレオネにおけるエボラ感染による死亡者数は 7,905 人に達し、約 1 万 5,000 人の子どもたちがエボラによって片方の親もしくは両親を失いました。公衆衛生上の懸念により、夏休みの後も 500 万人の子どもが学校に通えませんでした。

ユニセフは、エボラが発生したコミュニティにおいて、地域保健サービスの支援を行い、コミュニティ・ケアセンターを開設して、エボラの症状を示した患者と家族が経過観察とケアのためにこれを利用できるようにしました。ユニセフは両親や保護者を失った子どもの保護にも取り組みました。また、戸別訪問による啓発も支援し、この活動では冊子の配布、ラジオやテレビのスポット CM、コミュニティ指導者を通じて予防法を周知しました。こうした取り組みを通じて、コミュニティにおける教育と行動変容を促し、住民はエボラ患者のケアと感染拡大を防ぐための能力を身に付けることができました。

ユニセフはエボラが流行した 3 カ国で、各国政府やその他多くのパートナー機関と緊密に連携しました。例えば、世界銀行とユニセフは、エボラ危機に際し、緊急支援を行うためのパートナーシップを結び、世界銀行はユニセフに 9,000 万米ドルの資金を提供しました。この新たな協力は、脆弱な状況や紛争の影響を受けている地域で連携するためのより大きな取り組みの一環として実施されました。これを契機に、ユニセフと世界銀行は、同じような状況下にある当事国政府を通じて協力を続けていく予定です。

### ● エボラ患者の子どもたちに手を差し伸べ、気持ちに寄り添うエボラ回復者

2014 年の流行のピーク時、人々は感染した赤ちゃんを抱いたり、感染のおそれのある子どもの養育をすることを恐れていました。ユニセフは、パートナー機関と共に、リベリアとシエラレオネにおいて、政府の一時ケアセンターでエボラ回復者が感染のおそれのある子どものケアにあたる取り組みを支援しました。シエラレオネ政府はエボラ回復者らと 5 回の研修会を開き、400 人以上が闘病の経験を共有。その心理的影響への対処を講じたうえで、今度は同じコミュニティの住民を安全にケアする方法を学びました。特にエボラの影響を受けた子どもやエボラに感染した子どもたちが求める愛情やケアが得られるようにするにはどうしたら良いかを学びました。

### ● 空路、海路を通じて物資を届ける

ユニセフは、2014 年のエボラ流行の際、対応に必要な機器や消耗品を最も多く供給した機関のひとつです。同年にはギニア、リベリア、シエラレオネに 5,500 トン以上の支援物資を送りました。これは他のすべての緊急事態の支援物資の量を上回る規模となりました。ユニセフは、現地での物資調達のため尽力し、新製品のサプライチェーンを構築、市場での制約を克服し、必要とされる物資（個人防護具、塩素系漂白剤、石けん、必須医薬品、建材、ベッド、テント、マットレス）を送り届ける努力をしました。



## シリア人の 子ども 時代を支える

シリアでは4年にわたる紛争により、子どもや家族が心の奥まで恐怖にさらされています。2014年半ばまでに、760万人が避難を余儀なくされ、1200万人以上が人道支援を必要としました。うち600万人は子どもです。エジプト、イラク、ヨルダン、レバノン、トルコに逃れた330万人の難民のうち、170万人が子どもです。現在、シリアでは紛争により、世界最大規模の避難民が生まれ、保護を必要としています。

ユニセフは、定期予防接種、ポリオ感染予防のための臨時予防接種キャンペーンを実施し、5歳未満児290万人が予防接種を受けることができました。また、重度の急性栄養不良の予防にも重点が置かれました。ユニセフの支援を受け、1,560万人が安全な飲料水を手に入れたほか、公共インフラの修復やレジリエンス（柔軟かつ強靱な回復力）の構築などの長期的な支援も実施されました。また、280万人の子どもに教材を、12万7,000人以上に心理社会的サポートを提供しました。

ユニセフはパートナー機関と共に、国内外に住むシリアの子どもたちや若者たちを対象に、「失われた世代にしないために（No Lost Generation）」イニシアティブを引き続き展開しました。これは、教育と保護された環境へのアクセスを提供するために2013年に開始した統合的アプローチです（下記を参照）。

2014年、ユニセフは紛争地帯に計44回のミッションを送り、シリア国内でアクセスが困難な地域に住む65万9,500人に支援を行いました。また、ヨルダンとトルコからの計21回のトラック輸送により、60万人に支援物資が届けられました。届けられた支援物資には、保健キット、栄養不良を治療・予防するための物資、水と衛生に関連する資材、教育キットやレクリエーション・キットが含まれています。

シリア難民の子どもの半数近くが2013／2014年度は学校に通うことができませんでした。ユニセフは難民の子どもが正規の学校教育を利用できるよう政府に訴えました。また、73万5,000組以上の冬服キットを提供しました。うち3分の1以上が現地調達によるものです。

### シリアに「失われた世代」を作らないために

未来のシリアで教え、癒し、築くのは誰でしょうか。それはシリアの子どもたちです。しかし、この子どもたちは現在、住む家から追われ、国境（実際に存在する国境、精神的な意味での国境をも含み）を超えるという今まで想像もしなかった状況に置かれています。ユニセフの対応の多くが「失われた世代にしないために」のパートナーシップの下で実施されている理由がここにあります。その目標は明確で、医療や住まいなどの生きていくための基礎的ニーズを提供するだけでなく、子どもと若者たちが「学校に行っているか否かにかかわらず」国の将来を築く者、指導者、教師となるために必要な学識、保護、機会を得られるようにすることです。近年ユニセフのパートナーとなったクウェートは、このイニシアティブの一角を担う存在です。同国による継続的な直接支援のおかげで、ユニセフは国内外で困難な立場にあるシリア人約310万人に人道支援を届けることができたほか、難民と難民を受け入れる側のコミュニティのレジリエンス（柔軟かつ強靱な回復力）の構築に取り組んでいます。

た。アフガニスタンでは、暴力や広範囲に起きた自然災害により学校が閉鎖され、多くの人々が非合法的な居住地へ追いやられました。ユニセフはパートナー機関との協力の下、子どもや女性を対象に、栄養・基礎的保健サービス、安全な飲料水の確保、また保護者のいない、あるいは家族から離ればなれになった子どもたちへの保護とケアの面で支援を行いました。同国では重度の急性栄養不良に苦しむ5歳未満児10万人以上が治療を受けました。

ユニセフはこれと並行して、50年以上にわたり武力紛争が続く、世界で最も国内避難民の多いコロンビアにおける子どもへの支援を継続しました。2014年末時点で、紛争の影響（違法武装集団に動員される、性的暴力を受けるなど）を受けた子どもの数は200万人近くに達しました。

またユニセフは、ウクライナでは6万人に安全な飲料水を提供したほか、パレスチナでは、紛争の被害を受けたガザ地区の23万人の子どもに心理社会的支援を行いました。2014年の世界におけるユニセフの緊急支援活動の詳細は、ホームページ（<[www.unicef.org/appeals](http://www.unicef.org/appeals)>）で紹介されています。

ユニセフは、年間を通じて 緊急物資の調達

と輸送を続け、他の国連機関や政府と共に計画を策定し、人々の命を救うための人道支援を行いました。データやエビデンス（科学的根拠）、イノベーション（革新的技術・発想）を用いて、緊急事態の影響を受けた子どもたち — 中でも特に不利な立場にある子ども — を支援しました。また、データや根拠をもとに、危機が発生するごとに対応を改善させました。

ユニセフは、ヨルダンで最も困難な立場にあるシリア難民の子どもたちを支援するため、現金による助成金を提供する方法として、生体認証マッピングシステムを利用するなど、イノベーションを活用しました。虹彩認証技術を搭載した特殊な現金自動預け払い機により、難民世帯は直接助成金を手にすることができます。レバノンでは、ローカルマッピングにより、大多数のシリア難民やレバノンの困難な立場にある人々の居場所を特定し、ユニセフとパートナー機関は、最も困窮している人々を対象に、保健、衛生、教育、および子どもの保護に関する一連の支援（12～13ページ参照）を実施することができました。イエメンでは、エビデンスと分析を利用した方法で、主要地区の最も困難な立場にある子どもに基礎的保健サービスを提供しました。

## ● 子どもたちの声を広げる

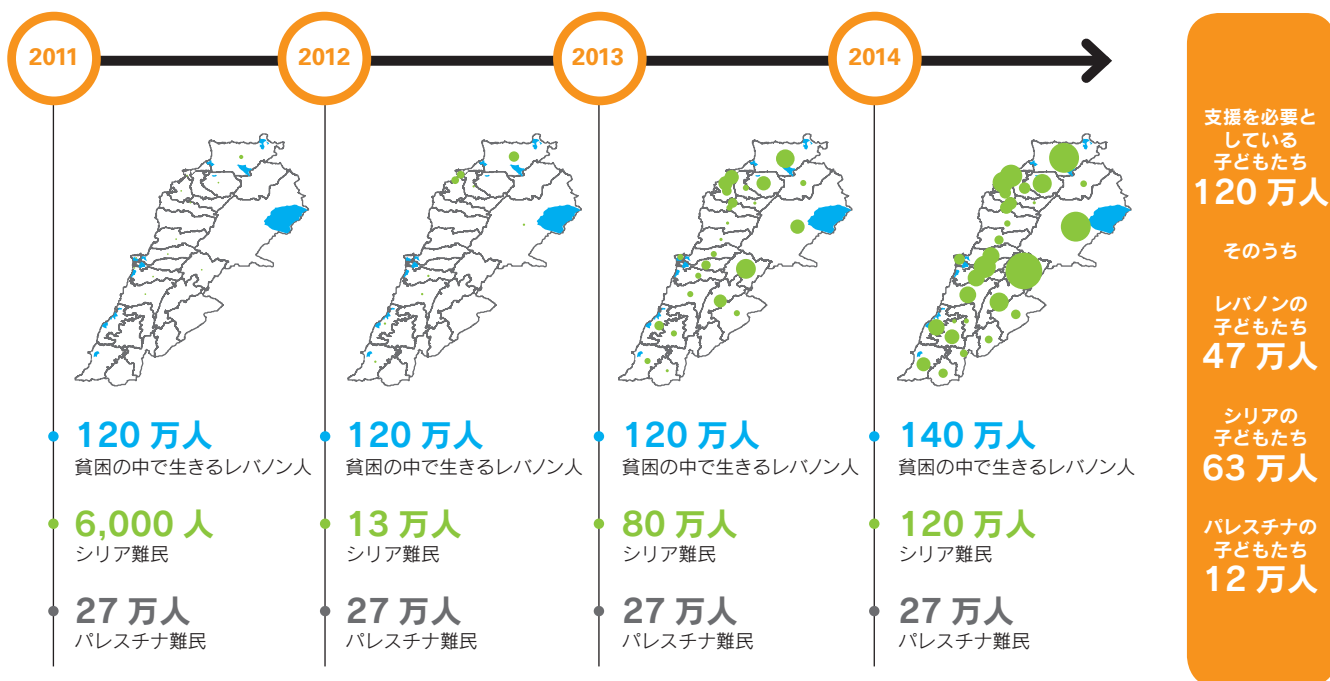
子どもたち一人ひとりが話すべきストーリーを持っています。ユニセフは、欧州委員会とギリシャ、アイルランド、イタリア、ポーランド、スロベニア、スペインの国内委員会（ユニセフ協会）の協力の下、2014年5月に「子どもたちの声」キャンペーンを立ち上げ、アヤちゃん（シリア）、マイケルくん（フィリピン）、シャムシアちゃん（チャド）の話を広げました。同キャンペーンは欧州の有名人とユニセフ親善大使が紹介し、専用ウェブサイトやソーシャルネットワーク、新聞・ラジオといった従来のメディアを活用して子どもたちの声とストーリーを伝えました。



## 公平性の実例：レバノンで脆弱性をマッピングする

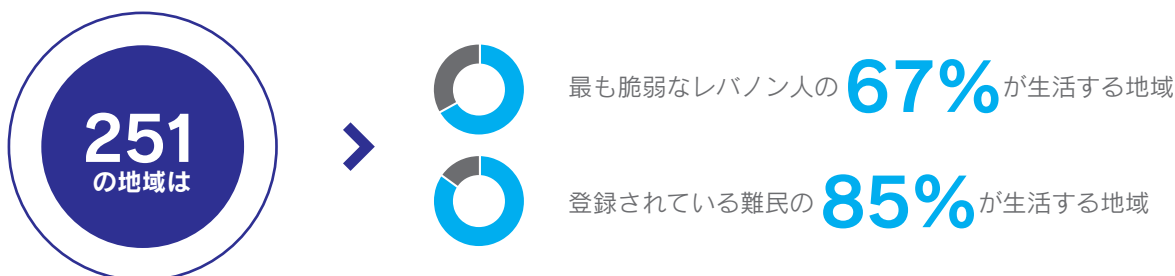
2014 年、ユニセフはレバノン政府と緊密に連携して、増え続けるシリアからの難民と 140 万人にのぼるレバノンの貧困層のニーズに公平に対応しました。詳細なマッピング作業により、最も困難な立場にある子どもや世帯が集中している地域を特定することができました。こうした世帯に対し、主要な物資供給地点で多様なサービスを提供することで、ユニセフとパートナー機関は、最も困難な立場にある子どもたちのニーズに、よりの確に応えることができました。

### レバノンにおける難民の数は 2011 年から 2014 年にかけて増加の一途をたどっている



### 支援成功の鍵

ユニセフとレバノン政府は、シリアからの難民（パレスチナ難民を含む）の所在地とレバノンの貧困層の所在地、また以前より同国にいたパレスチナ難民の所在地を重ね合わせた地図を作成しました。このマッピング作業から以下が明らかになりました。



➤ 困難な立場にある人々の全体像を捉えることで、ユニセフとパートナー機関は効率的にサービスを提供し、最も困窮している人々に支援を届けることができます。

## プログラムの分野

ユニセフとパートナー団体は、レバノンで4つの主要分野で支援を行っている

水と衛生

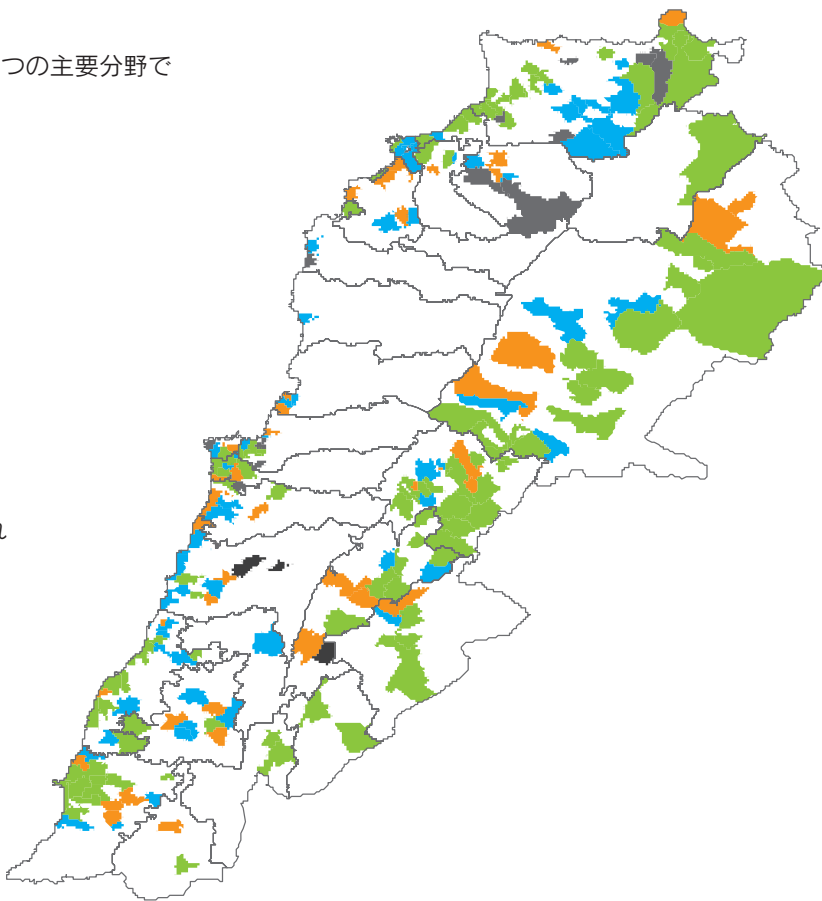
教育

子どもの保護

保健と栄養

支援が行われている251の対象地域で行われている活動分野の数：

- 実施されている分野が0
- 実施されている分野が1
- 実施されている分野が2
- 実施されている分野が3
- 実施されている分野が4



## レバノンの最も脆弱な子どもたちを対象としたユニセフとパートナー団体の活動

公立の学校



1,278

社会開発センター



57

プライマリ・ヘルスケアセンター



206

仮の居住場所



1,637

UNHCR登録センターと  
国境検問所



8

コミュニティ  
センター



20

パレスチナ  
難民キャンプ



12

パレスチナ人の  
集会



3

2014 年、ユニセフとパートナー機関は紛争と自然災害の両方の影響を受けた 35 カ国において、ジェンダーに基づく様々な形の暴力の防止と対応に取り組みました。この取り組みの一環として、42 万 5,000 人以上の女性や女子、男性や男子に対し、ジェンダーに基づく暴力・性的暴力を受けた場合に、どのように支援を受けるべきか、どこに支援を求めるべきかについて研修を実施しました。また、8,500 人以上の支援サービス提供者に対し、ジェンダーに基づく暴力・性的暴力への対応について研修を実施しました。

ユニセフは、人道的危機を体験した女性や青年期の女子への広範な調査を行ったうえで、即時対応型の「水と衛生・衛生習慣 (WASH)・尊厳回復キット」と「家族用衛生・尊厳回復キット」の 2 種類のキットを新たに作りました。2014 年に配布準備が整ったこれらのキットには、生理用品や身の安全を守るための懐中電灯などが入っています。

何百万人もの子どもたちの深刻な人道支援ニーズに組織全体で対応するうえで、課題も生じました。中央アフリカ共和国やイラク、シリアなどの地域では情勢が極めて不安定であったほか、ユニセフが支援する緊急事態のほぼすべてにおいて、十分な対応を行うための資金が不足していました。

2014 年、緊急派遣された職員の数 は 934 名と、2013 年の 755 名を大きく上回りました。その 90% 近くが全組織的対応を必要とした緊急事態のための配置であり、うち 285 名はエボラへの対応要員でした。ユニセフの物資供給活動は子どもたちの多様な人道支援ニーズに応えるため、世界中で使えるよう用意されている緊急支援物資を活用して行われました。

ユニセフは危機対応を向上すべくパートナー機関と協議を重ね、引き続き人道支援活動の効率化と成果向上に努めました。こうした取り組みは、2014 年は複雑かつ高い脅威にさらされる環境の中で働く職員へのサポート改善につながりました。

ユニセフは人道的緊急事態の影響を受けた国々において、各国政府および他のパートナー機関と連携し、子どもたち — 特に最も困難な立場にある子どもたち — の長期的な開発ニーズが重視されるよう配慮しました。ユニセフの開発支援は、危機が発生した際のレジリエンス（柔軟かつ強靱な回復力）を促進することに主眼を置いています。子どもたちの幅広いニーズに対応するという経験を通じて、ユニセフは人道支援と開発事業を結びつけることのできる特別な立場にあります。

“ どれだけひどい暴力行為が行われようとも、それ以上に助けようとする人たちがそこにはいる ”

・・・ ユニセフ親善大使 ミア・ファロー

2014 年 7 月、訪問先の中央アフリカ共和国にて。





## 南スーダン 届けにくい場所へ 支援を届ける

南スーダンでは 2013 年末に紛争が勃発し、国民は避難を余儀なくされ、飢え、病気、そして幅広い権利侵害に直面しました。そして 2014 年末までに、暴力により国内の半分以上の地域で基礎的サービスがほぼすべてが中断されてしまいました。約 190 万人が住む家を追われ、そのうち約 75 万人が子どもでした。50 万人近くの南スーダン人は、同年、エチオピア、ケニア、スーダン、ウガンダなどの周辺国に避難しました。

紛争の結果、重度の急性栄養不良に苦しむ子どもの数は倍増し、40 万人が学校に通えなくなりました。その一方で、数千人もの子どもたちが軍や武装集団に徴募され、その多く — 特に女子たち — はジェンダーに基づく暴力の対象となりました。

2014 年はじめ、ユニセフとパートナー機関は紛争の影響を受けた遠隔地の数万人の住民にも人道支援を届ける方法を検討しました。南スーダンでは、イケア基金の寄付がきっかけとなって即応メカニズム（RRM、下記を参照）を始動することができ、支援を届けることが困難な子どもたちや家族を支援することができました。同メカニズムは、その後は主にユニセフの通常予算で運営されるようになりました。ユニセフが世界食糧計画（WFP）およびその他のパートナー機関と共に支援した人々の数は、2014 年はじめの 9 万人から、同年末には 60 万人（うち 12 万 7,000 人が子ども）を超えました。南スーダンの RRM においては、栄養改善の観点から優先支援地域を特定しました。食料の配給に加え、栄養不良児のスクリーニングと治療を目的とした医師への紹介、安全な飲み水と命を守る予防接種、および教育と保護へのアクセスなどが提供されます。2014 年に、保護者がおらず家族と離ればなれになってしまった子どもたちのうちフォローアップを必要とした子どもたちの 4 分の 1 は、この共同の取り組みを通じて見つけ出されました。

### ● 即応メカニズム（RRM）により公平なサービスを届ける

2014 年、即応メカニズムは、困難な状況にある子どもたちや家族（地理的な理由や治安面での理由により、ユニセフの現地パートナー機関でさえ、支援を送り届けることができない人々など）に適切なタイミングで人道支援を行ううえで、効果的な方法であると証明されました。この専門家チームから成る移動チームを送り込む方法は、予防接種や栄養不良児のスクリーニングといった活動を直接的に実施するほか、人道支援ニーズの評価と共に、命を救う人道支援の同時提供を可能にしました。ユニセフは主要な国連機関や NGO 系のパートナー機関との連携、ならびにドナーからの支援を通じて、中央アフリカ共和国、イラク、および南スーダンで RRM を実施しています。ユニセフはコンゴ民主共和国でもこのメカニズムを主導しています。RRM は様々な状況下で多様なパートナー機関と遂行され、子どもや家族を対象とした多様なセクター間の人道・緊急支援を展開するうえで、迅速かつ信頼性の高い手段となっています。



中央アフリカ  
共和国  
子どもらしく生きる  
ことができない国

2014 年、中央アフリカ共和国では 200 万人以上の子どもたちが暴力の影響を強く受けました。子どもたちは避難を余儀なくされたり、あるいは家族と離ればなれになったり、レイプの被害にあい、障がいを負い、殺されることもありました。武装集団に強制的に徴募された子どもの数は推定 1 万人近くにのぼりました。多くの子どもや家族が保健ケア、安全な飲料水、適切な衛生設備、および HIV / エイズ関連のサービスを利用できなくなりました。140 万人近くの人々が食料不足に陥りました。同年末の段階で、約 85 万人が故郷を追われたままになっています。国内に留まることができたのは半分強で、残りの人々は同地域内の周辺国へ逃げ延びました。

同国における緊急事態では、複雑かつ流動的な状況下でのユニセフの支援能力が試されました。結果として、ユニセフは 23 万 8,000 人近くの 5 歳未満児を対象としたはしかの予防接種を支援し、114 万人以上にポリオの予防接種を実施、子どもたちに教育、衛生、栄養支援サービスを提供しました。また、2,800 人以上の子どもたちを武装集団から解放することに成功し、心理社会的サポートを行ったほか、ジェンダーに基づく暴力から逃れてきた子どもたちを支援し、離ればなれになった家族と再会できるよう手助けしました。また、即応メカニズム (RRM) の調整を通じて、人道的ケアの提供範囲を拡大しました。

中央アフリカ共和国。  
暴力を逃れてきた一  
家。昼寝中の孫たち  
を見守るおばあさん。



© UNICEF/PFPG2015-2454/Logan



## イラク 保護を必要とする 子どもたちへの 支援

イラクでは、隣国シリアの争いに連動した紛争が何年も続き、2014 年も子どもたちや女性の健康と福祉に対する脅威はやみませんでした。暴力によって人々は住む家を追われ、さらには 14 年前に根絶されたポリオが再発しました。避難を余儀なくされ生活を奪われた人々に、冬の寒さが追い打ちをかけました。

2014 年、イラクでは約 520 万人が人道支援を必要とし、うち 170 万人は武装集団が支配する隔絶された地域にいました。避難を余儀なくされ、国内の数千カ所に逃れた 220 万人のうち半数は子どもでした。イラクは 21 万人以上のシリア難民を引き続き抱えており、うち 3 分の 2 は特別に保護を必要とする女性と子どもでした。

ユニセフはイラク保健省と世界保健機関（WHO）と共に、560 万人の子どもたちにポリオの予防接種を実施しました。計 75 万 7,000 人が安全な飲料水を利用できるようにし、60 万人に衛生関連の支援を提供しました。また、21 万 5,000 人以上の子どもたちが教育を引き続き受けられるよう支援したほか、「子どもにやさしい空間」を設け、遊びの場や安心感が得られるようにしました。約 16 万人の子どもたちに冬服と防寒具を提供しました。また、2,500 件以上の深刻な子どもの権利侵害について検証と文書化を行い、イラクの子どもたちへの保護をさらに強化する必要性を浮き彫りにしました。

さらにユニセフは即応メカニズム（RRM）をパートナー機関と共に立ち上げ、38 万人以上の避難民に携帯用の軽量物資キットを配布しました。同キットには成人用の衛生用品、飲料水 12 リットル、配給食 12 キロ、折り畳み式の貯水タンクが入っており、移動中の一家族が最大一週間持ちこたえられるようになっています。

“ 毎晩、学校に通っている夢を見るの。先生が勉強を教えてくれて、お父さん、お母さんが私のもとに帰ってきてくれる夢。私たちは平和のうちに、静かに我が家で暮らすの。すべてが正常に戻るのよ。 ”

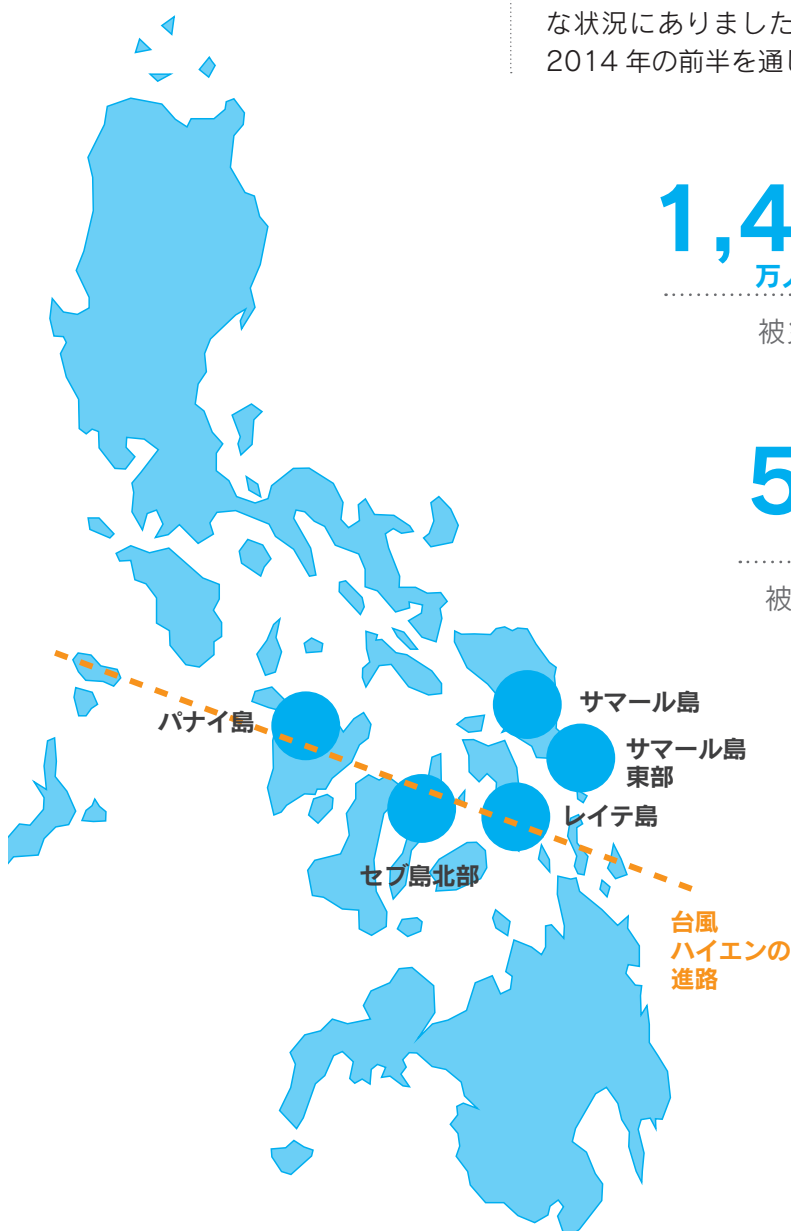
・・・ ヌールさん 8 歳

2014 年 9 月、家を追われた人々が生活するバハルカ・キャンプにて。

## 将来を見据えて、人道的ニーズに応える： 台風ハイエンへの対応

2013 年 11 月 8 日  
**台風ハイエン**が  
フィリピンを直撃した

沿岸の低地帯のコミュニティを襲った台風の暴風雨により、6,000 人以上の人々が亡くなり、学校や住宅、保健センターが破壊されました。特に大きな打撃を受けたレイテ島、サマル島、サマル島東部、セブ島北部、およびパナイ島の沿岸・内陸地域は、以前から子どもの 40% が貧困状態にあり、フィリピンでも最も困難な状況にありました。ユニセフは直ちに人道支援活動を開始し、2014 年の前半を通じて緊急支援体制をとり続けました。



**1,400**  
万人



被災した人

**410**  
万人



家を失い避難民となった人

**590**  
万人



被災した子ども

**170**  
万人



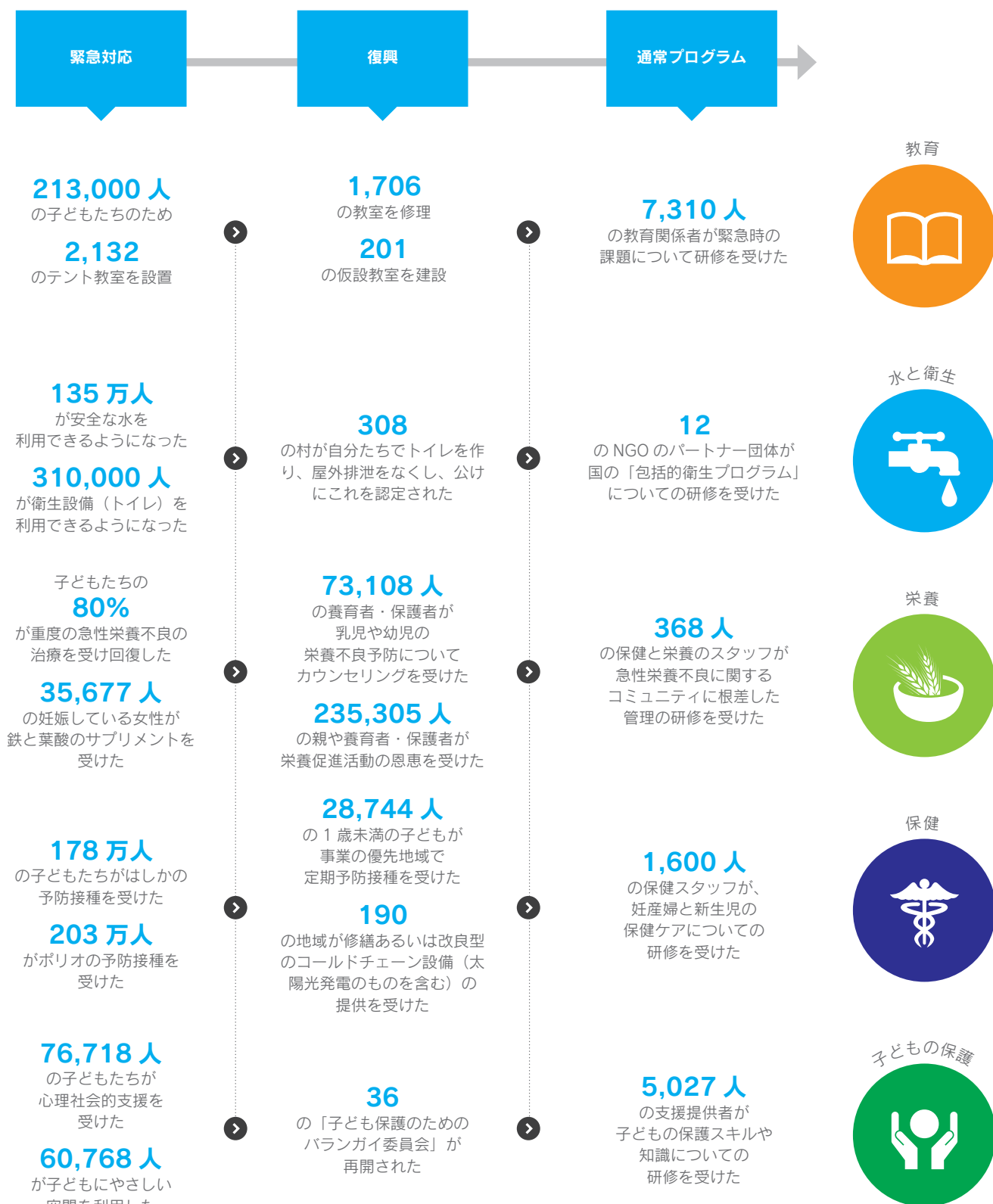
家を失い避難民となった子ども

### ユニセフの支援は広範囲

ユニセフは、コミュニティや政府、市民社会、国内外の多様なパートナー機関と連携し、子どもたちの緊急ニーズに対応したうえで、安全とレジリエンス（柔軟かつ強靱な回復力）の構築にあたりました。

2014 年 7 月までに、人道支援の段階は終了し、復興と再建の段階に移った





ユニセフの活動の各局面が相互に影響し合い、効果を高める





若い女の子と男の赤ちゃんを抱えたお母さん。ユニセフは、ここインドネシアのパプア州で、遠くはなれた村々に住む世帯にも保健サービスを提供している。